証券コード 1905

第52期　第2四半期

株主通信

2021年4月1日～2021年9月30日

Tenox

代表取締役社長
佐藤雅之

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第52期第２四半期株主通信をお届けし、2021年度上半期（2021年4月～2021年9月）の業績の概況等につきましてご報告申し上げます。

第2四半期の業績と通期見通しについて

2021年度上半期の国内経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う緊急事態宣言発出やまん延防止等重点措置の適用により、社会経済活動は大きく制限されました。ワクチン接種が進み景気回復への期待が高まっていますが、引き続き内外の感染症の動向等に注視が必要な状況です。

建設業界におきましては、公共投資は堅調に推移し、民間の設備投資は持ち直しの動きが続いていますが、建設需要の先行きの不透明感が拭えないことから、受注競争の激化に加え、建設資材価格が上昇する等、厳しい経営環境となっています。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の売上高は、物流施設等の大型の地盤改良工事が増加したものの、小型の地盤改良工事では同業者との競合が激しく、68億38百万円（前年同期比5.1％減）となりました。また、利益につきましては、営業利益は48百万円、経常利益は72百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は61百万円となり減収・増益となりました。

2021年度（第52期）の通期業績見通しにつきましては、下期に大型の杭工事の施工が予定され、地盤改良工事の受注件数増も見込まれることから、5月に発表した業績予想を据え置いています。

配当について

当期の中間配当につきましては、5月に発表した配当予想通り1株当たり10円、期末配当は普通配当10円に上場30周年の記念配当5円を加えた15円とし、年間配当は25円を予定しています。

新中期経営計画の初年度

今年度は2021年度～2023年度の3か年の新中期経営計画の初年度です。

新中期経営計画は「進取の気性」のスローガンのもと、「開発戦略」「営業・施工戦略」「ESG戦略」の3つの基本戦略を掲げ、変化する社会のニーズに適応した高付加価値を創出してまいります。

「開発戦略」と「営業・施工戦略」では、当社の事業目的である建築・土木構造物をお使いになる全ての人々に、基礎工事を通して「安全」と「安心」をお届けし、技術開発力と施工力を駆使して国土強靭化への貢献を進めてまいります。

「ESG戦略」では「脱炭素」への取り組みを加速させます。昨年から使用を開始したCO_2排出量の少ない「GTL燃料」を、現場での各種施工機に使用を拡大させました。また、日本コンクリート工業株式会社との業務提携の一環として「PAdeCS研究会」に加盟し、コンクリートスラッジ由来の脱リン材「PAdeCS」製造時にCO_2を封入して生成されるエコタンカルを、基礎工事の施工において使用する研究を開始しました。当社の基礎工事工法でのCO_2固定化を実現し、基礎工事における「脱炭素」の流れを牽引します。

ステークホルダーとの関わりにおきましては、株主の皆さまをはじめ従業員、顧客、取引先等との適切な協働に努めてまいります。重要な経営資源である従業員に対しては、会社の持続的な成長を担えるよう健康経営、生産性の向上を推進し、働きがいのある職場環境を整備します。

「3つの基本戦略」で中長期的な企業価値を向上させ、全てのステークホルダーが豊かさを実感できるサステナブルな企業を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

What's テノックス【Vol.11】 持続的な価値創造に向けての取り組み

外部環境

社会的課題

- 総人口の減少
- 生産年齢人口の減少
- 激甚化・多発する自然災害
- 社会インフラの老朽化
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による社会構造の変化
- 社会価値の変化（SDGs）

創造する価値

投下資本

- 財務
- 人的
- 社会関係
- 知的
- 自然

長期ビジョン（目指すべき企業像）

変化する社会のニーズに適応した技術の革新に積極的に取り組むことで、新たな価値と市場を創出する

基礎工事を通し、社会に「安全」「安心」を提供し、全てのステークホルダーが豊かさを実感できるサステナブルな企業を目指す

新中期経営計画

新中期経営計画は、長期ビジョンの達成に向けたPhase 2と位置づけ、変化が著しい経営環境を見据えた戦略を構築する

経営理念

人間尊重　技術志向　積極一貫

3つの基本戦略

重要課題

開発戦略
- 新技術の創出
- 基礎地盤の強靭化への貢献
- ICT技術の活用・導入
- 産学連携による インキュベーション発信
- 「戦略企画室」の更なる機能化

営業・施工戦略
- リダンダンシープロジェクトへの貢献
- ワンストップサービスの実現
- 営業領域の拡張
- ベトナム公的技術基準の活用と コンクリートパイル事業の拡大
- 東南アジア圏における更なる進出

ESG戦略
- 環境配慮型社会の形成
- 激甚災害への備え
- 技術と品質の向上
- 労働安全衛生の充実
- 人材の確保と育成
- 経営の健全性

経済・社会的価値

テノックスの想い

創業当時より一貫してESG経営を行ってきたことに信念を持ち、今後更に社会に貢献する企業を目指していく。

E 環境（Environment）

CO_2排出量の削減

環境に優しい工法、残土を出さない工法の提案

産業副産物の有効利用

S 社会（Social）

安全・安心な技術・サービスの提供

強靭な社会インフラの構築

従業員が働きがいを実感できる企業

ダイバーシティ＆インクルージョン

G ガバナンス（Governance）

リスクマネジメント体制の構築

コンプライアンス意識の向上

News & Topics

環境負荷の少ない軽油代替燃料「GTL燃料」を大型杭打機に初めて使用

当社は脱炭素への取り組みの一環としてGTL（Gas to Liquid）燃料の使用を推進し、2020年10月から東京機材センターのゼネレーター、クローラークレーン、フォークリフトで順次使用を開始、重機や商品の安全確認を行ってきました。

GTL燃料は、天然ガス由来で硫黄分を含まず、CO_2排出量の削減に効果を発揮する（対軽油比8.5%減）ほか、NOx（窒素酸化物）やPM（ばい煙・粉じん等の粒子物質）も削減することができるクリーンな燃料です。

この度、全国的なGTL燃料の導入を先に発表されている東急建設株式会社が元請会社である、「亜細亜大学日の出キャンパス再開発計画第２期建築工事」（発注者：学校法人亜細亜学園、施工地：東京都西多摩郡日の出町）において、基礎工事業界では初めて、GTL燃料を使用した大型杭打機を始めとする重機でのテノコラムECO工法の施工を実施しました。

当工事での知見を活かしGTL燃料の全国展開を進め、脱炭素社会への取り組みを積極的に推進してまいります。

第52期（2022年3月期）　第2四半期連結決算概況

売上高 **68億38百万円**

経常利益 **72百万円**

営業利益 **48百万円**

親会社株主に帰属する四半期純利益 **61百万円**

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	第51期末 2021年3月31日現在	第52期第2四半期末 2021年9月30日現在
資産の部		
流動資産	15,102	POINT 1 13,598
固定資産	3,061	2,911
有形固定資産	2,465	2,334
無形固定資産	53	46
投資その他の資産	542	530
資産合計	**18,163**	**16,510**
負債の部		
流動負債	5,057	3,724
固定負債	890	714
負債合計	**5,948**	**4,439**
純資産の部		
株主資本	11,784	11,680
その他の包括利益累計額	42	20
新株予約権	94	91
非支配株主持分	293	279
純資産合計	**12,215**	**12,070**
負債純資産合計	**18,163**	**16,510**

POINT 1 受取手形・完成工事未収入金及び契約資産等が減少

POINT 2 大型電力施設や物流施設の工事が寄与したが、収益認識に関する会計基準の適用等の影響により商品売上高が減収

POINT 3 大型案件の利益が寄与し増益

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	第51期第2四半期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	第52期第2四半期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
売上高	**7,205**	POINT 2 **6,838**
売上原価	6,309	5,843
売上総利益	**896**	POINT 3 **995**
販売費及び一般管理費	879	946
営業利益	**16**	POINT 3 **48**
経常利益	**29**	**72**
税金等調整前四半期純利益	**31**	**77**
四半期純利益	**36**	**47**
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△7	△14
親会社株主に帰属する四半期純利益	**44**	**61**

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	第51期第2四半期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	第52期第2四半期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**△505**	**541**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△309**	**△78**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△119**	**△413**
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	**△934**	**50**
現金及び現金同等物の期首残高	**9,304**	**8,402**
現金及び現金同等物の四半期末残高	**8,369**	**8,453**

※2022/3期より「収益認識会計基準」を適用

※2021/3期期末配当金は創立50周年記念配当10円を含む
※2022/3期期末配当金は上場30周年記念配当5円を含む

会社概要

会社概要 (2021年9月30日現在)

商号	株式会社テノックス
設立	1970年7月8日
資本金	17億1,090万円
従業員数	195名(連結320名)

役員体制 (2021年10月1日現在)

代表取締役社長	佐藤 雅之	執行役員	児玉 勝久
取締役執行役員	堀切　節	執行役員	又吉 直哉
取締役執行役員	坂口 卓也	執行役員	迫田 一彦
取締役執行役員	高橋 勝規	執行役員	仙石 茂史
取締役(監査等委員)	里見 雄冊	執行役員	若尾　直
取締役(監査等委員)	大森 勇一		
取締役(監査等委員)	竹口 圭輔		

※1．監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、社外取締役であります。
※2．監査等委員である取締役大森勇一氏及び竹口圭輔氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会：毎年3月31日 期末配当　：毎年3月31日 中間配当　：毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先・電話照会先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 フリーダイヤル　0120-782-031 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)
単元株式数	100株
証券コード	1905
公告掲載URL	https://www.pronexus.co.jp/koukoku/1905/1905.html 当社の公告は電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

株式の状況

(2021年9月30日現在)

発行可能株式総数　21,640,000株
発行済株式総数　6,913,884株
(自己株式780,196株を除く)
株主数　1,661名

※自己株式780,196株については個人・その他に含めております。

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
光通信株式会社	532,300	7.69
住商セメント株式会社	432,000	6.24
三菱商事株式会社	317,020	4.58
明治安田生命保険相互会社	253,000	3.65
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	248,200	3.58
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	226,218	3.27
株式会社三井住友銀行	220,220	3.18
三井住友信託銀行株式会社	220,000	3.18
樗澤　佐江子	213,000	3.08
伊藤忠丸紅住商テクノスチール株式会社	200,000	2.89

※当社は自己株式780,196株を保有しておりますが、上記大株主より除外しております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

表紙の説明

TN-X工法

日本製鉄株式会社と共同研究開発した、大径鋼管杭の先端に大きな球根を築造する建築向けの工法。物流倉庫やホテル、マンションなどの大型建築物を、少ない杭本数で支えることができます。

TN-X工法の概要

株式会社 テノックス
〒108-8380
東京都港区芝五丁目25番11号　ヒューリック三田ビル 5F

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C121784
NIK VOC FREE
Green Power